

# 沖縄の実像を伝える発信力

# 松元剛先生講義～基地問題の深層～



▼県外メディアと県内メディアの見解の違いが、以前から気になつていましたが、今日の講義で納得しました。県民に寄り添い、日々、深く取材しているかどうかの違いだつたんですね。そして、自分自身の基地問題への関心が低いことも、痛感させられました。（多恵美）

(多惠美)

▼県外から沖縄への見方が「基地があるのは宿命」や「金に転ぶ」などと、差別や偏見の目で見て、いる事実を知ることができ、県民の想いや意見とのギャップがこんなにもあるのか！と痛感し、今後も注意深くメディアを見て、いきたいと思います。  
（真弥）

▼基地問題に関して、色んな考え方や情報が飛び交う中、改めて自分の意見や公私の身の振り方を考えされました。ありがとうございました。ありがとうございます。（洋一）

▼やつぱり重たいテーマでしたが、私たち県民としてきちんと向き合つていかなくちやと思いました。あと、バスガイドとして、正確なデータを話すことの大切さを再確認しました。ありがとうございました。（舞子）

いと思います。  
▼基地をめぐる問題には、いつも怒りが込み上げて来る。沖縄の人は、沖縄から基地がなくなることを目指して、あきらめずに考え続けるなければならないと思つた。

A photograph showing a man in a grey suit standing behind a podium, speaking to an audience. The audience consists of several people seated at tables, facing the speaker. In the background, there is a large framed calligraphic sign with the characters '島の記念塾' (Ishigaki Shuren Juku). The setting appears to be a classroom or lecture hall.

▼松元さんの話を聞いて、こんな現状が許されるのかと、腹立たしい気持ちになりました。今の現状をもつと勉強して、しつかりしたいと思います。（祥子）

かりに基地負担をおしつけるのか、あらためて怒りが込み上げてきました。日本政府、国民が正面からこの問題に取り組むまで、取材を続け情報を発信し続けてほしいです。

（二樹）

島マス記念塾  
事務局担当者  
無責任編集  
Tel.937-3385  
MASU@OKICITY  
SHAKYO.COM

▼基地問題に関して、色んな考え方や情報が飛び交う中、改めて自分の意見や公私の身の振り方を考えされ



は、撮影できないときもあることを知りました（丈也）

▼米軍の基地問題について、もつと考える必要があることを改めて実感しました。

（樹）

▼仲井真知事の表明 II 「屈辱」を前に、改めて沖縄に押しこめられた問題を整理し聽講しました。「温度差」や「溝」「差別」に負けない沖縄の人の誇りや自信を醸成できるようがんばります。

（亜季子）

▼松元さんの話を聞いて、沖縄県民はアメリカ政府、日本政府、特に、日本政府から蔑視されていると改めて痛感しました。本当にワジワジーします。（恵祐）



▼昔、勤めていた（将裕）  
昔、勤めていた  
えています！



▼私も本土出身者として、沖縄は基地がないとダメだと思つていました。沖縄の講義を聴いて、やっぱり基地は沖縄にあつてはいけないと思いました。もっと

国や政府は現地にいる人達の話を聞いた方がよいと思いました。（倫美）

会社が、普天間基地から數十メートルしか離れていない所で騒音・振動がすごかつたのを思い出した。しかも、その時期のとある事故により普天間基地返還が決まりたのに、進展が一向にみられない中、突然の辺野古の基地建設の埋め立て承認。沖縄の未来を考えさせられる講義でした。（道憲）

